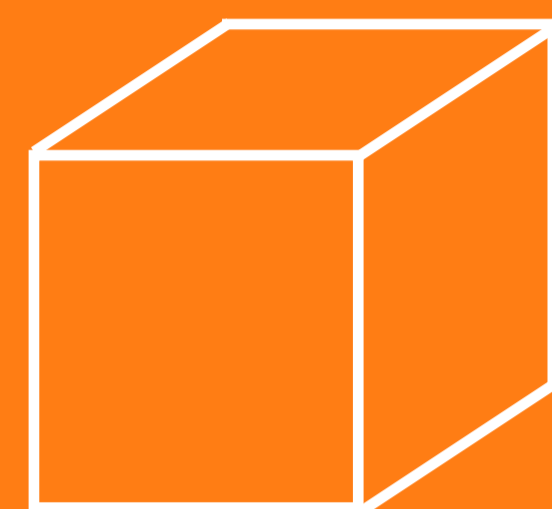


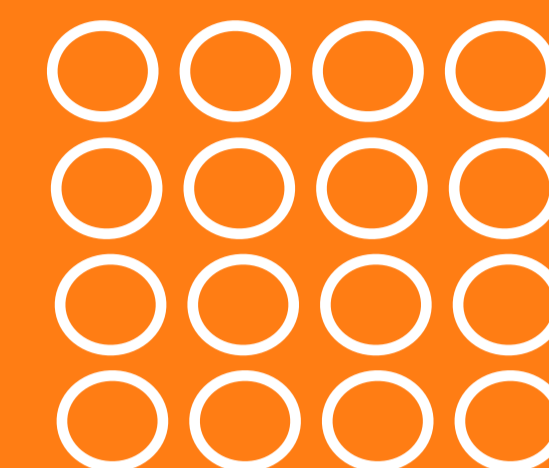
洗浄作業とは何か!?

A.乾燥し固着化した汚れやワックスを水に溶かして回収すること



角砂糖

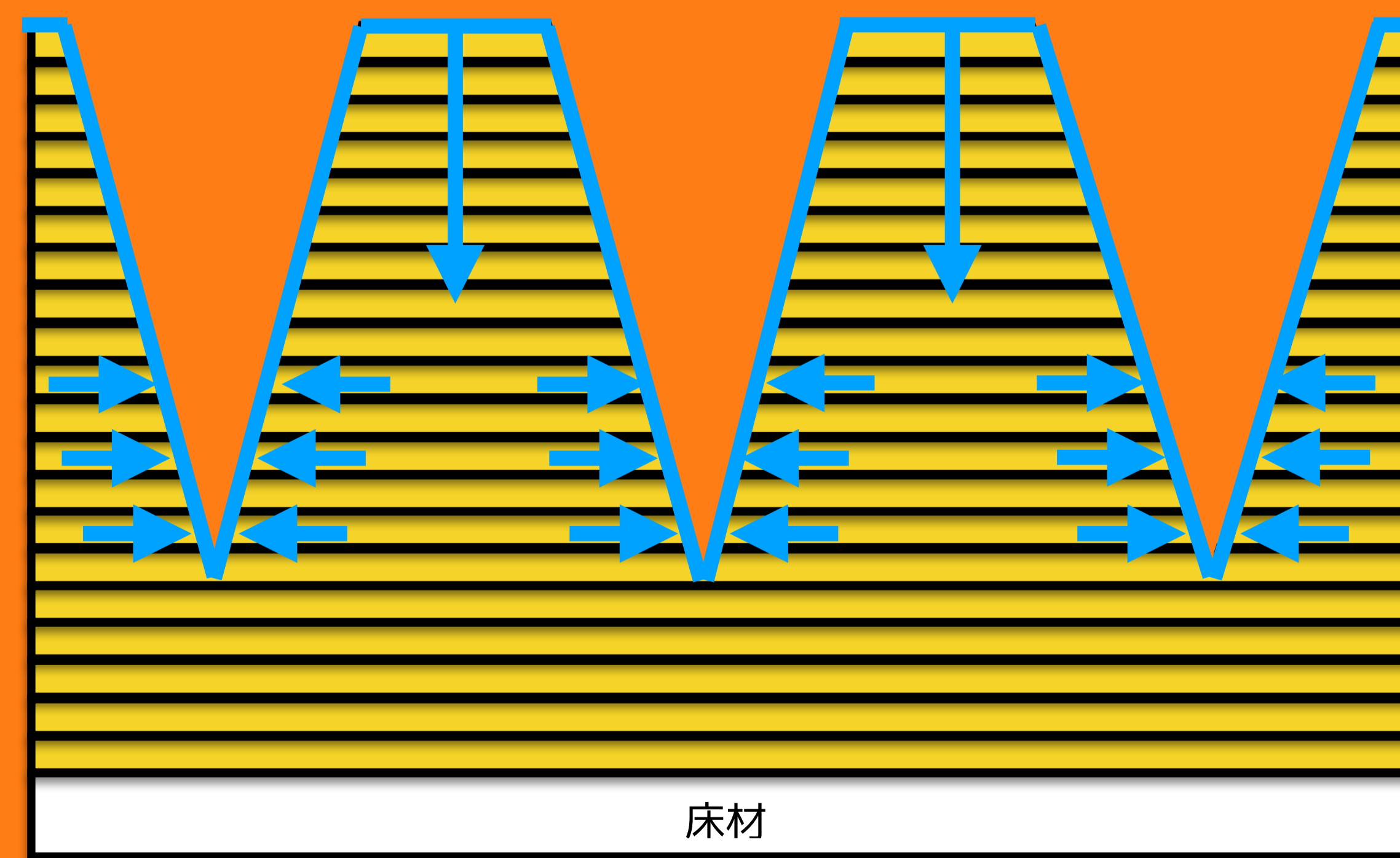
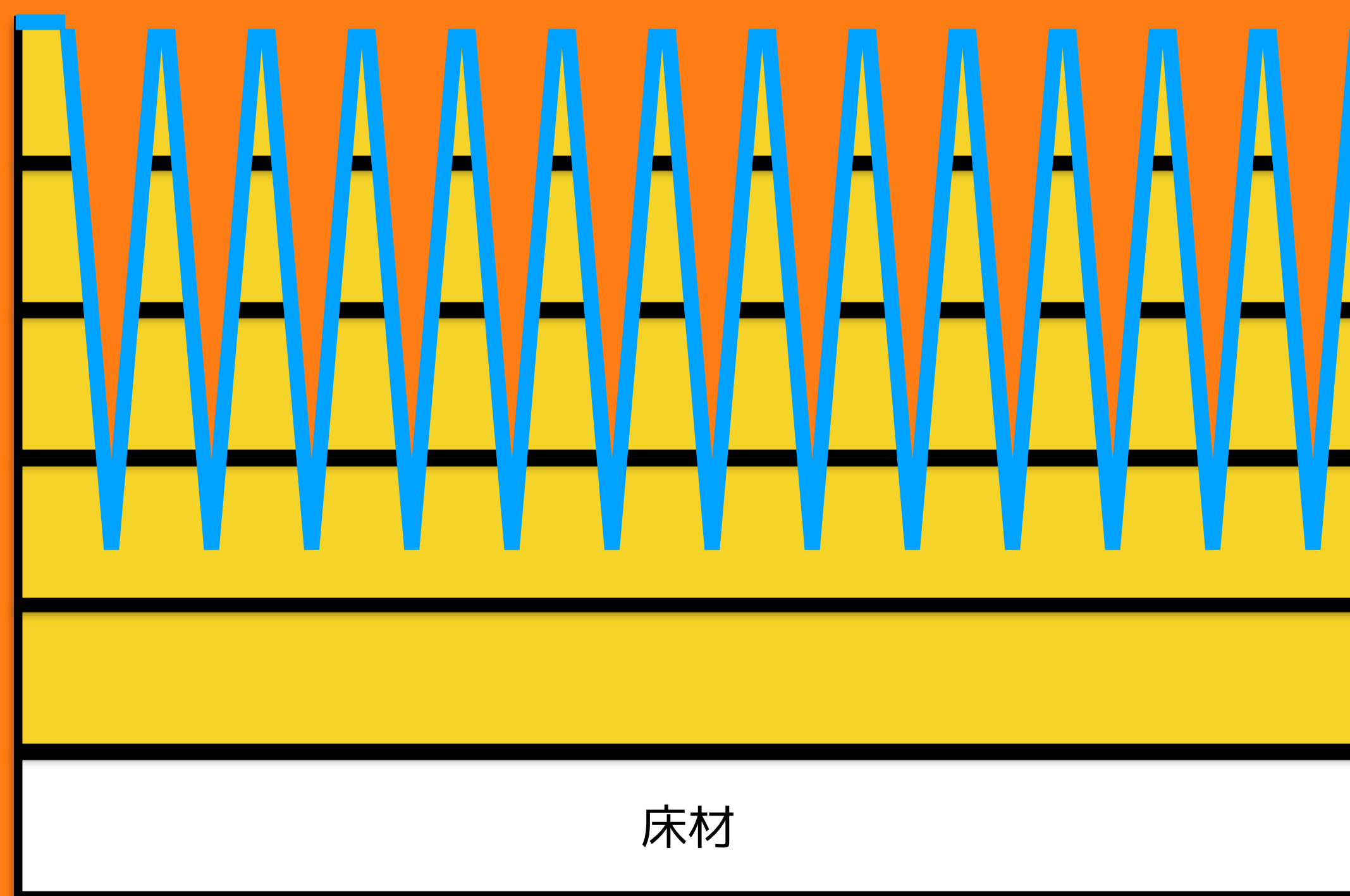
どちらが溶けやすいか?
表面積が大きく水との接点が多い
粉砂糖の方が早く溶ける



粉砂糖

角砂糖を粉砂糖に変えてしまうのがポイント

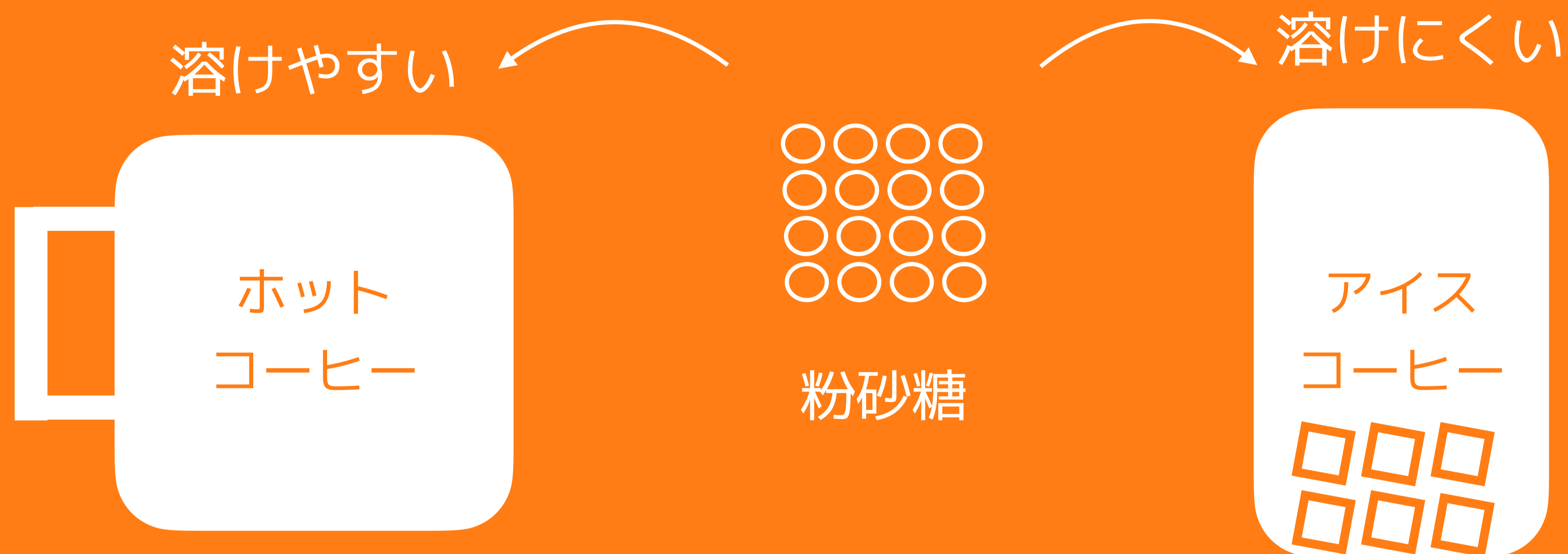
SPPパッドやハイプロパッドは顕著にこれをやっている



アルカリや溶剤でワックスは溶けることはなく、膨潤するだけでそれをパッドで細かく破碎して水に溶かしている

洗浄液の飽和

アイスコーヒーよりホットコーヒーの方が粉砂糖が溶けやすく
 同じ量では溶け込む量にも大きな違いがある



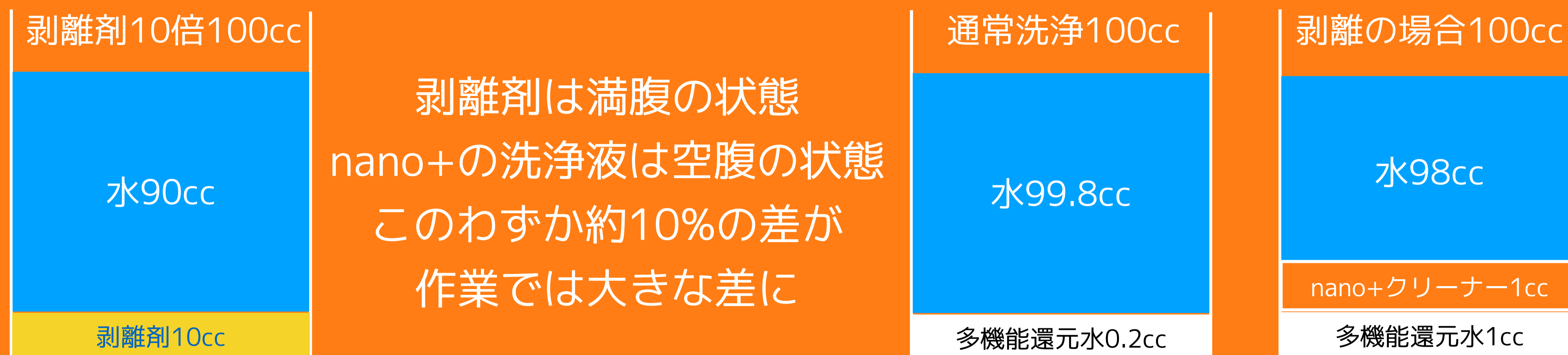
ワックスも汚れも砂糖のようなもの
 角砂糖を粉砂糖に変えながらかき回すのがパッド
 現場では冷水なのでアイスコーヒーで洗っているようなもの
 ダスターをかけないとワックスも汚れも落とせない

Point!

- ・ 洗浄液をたっぷり(100c/m²以上)塗ってから洗う
- ・ 水をポリッシャーや洗浄機で足しながら洗う
- ・ 洗浄液を集めながら洗うことで洗う箇所の水を増やす

水に溶けるスピードは変化する

人間のお腹と一緒に空腹の時は早く、満たされてくると遅くなる



希釈が濃い洗浄液は塗布した後に水を打ってから洗わないと反応したものが落ちない
特に剥離剤でパッドが詰まる状態は水が足りていないのとワックスが細かくなっていない

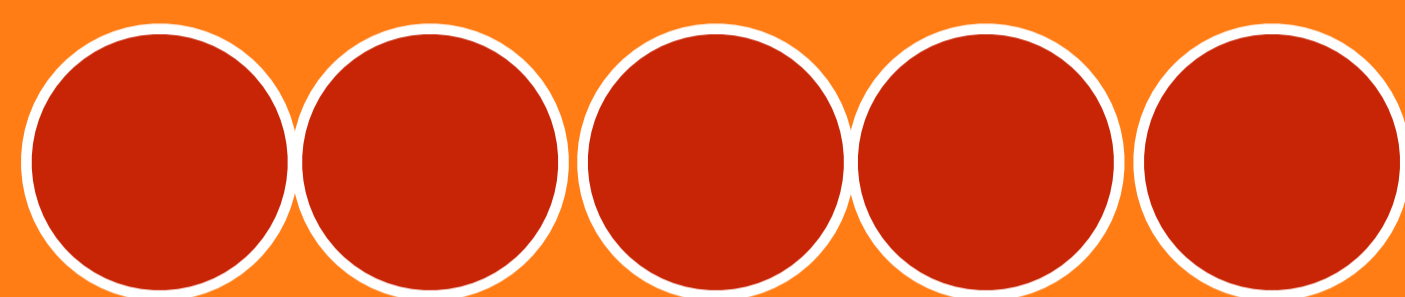
薄い洗浄液は残留が少なくリンス性も良いので密着率が落ちにくい

希釈の薄いnano+のケミカルは汚れもワックスも溶け込みやすく
汚れが早く落ちてくれて、ベタつきも出ないので作業性も良い
カーペット洗浄では汚れの回収率が汚水の色に明らかな差が

予備洗浄の必要性

ワックスに刺さった土砂や油汚れが多い場合は予備洗浄を行う

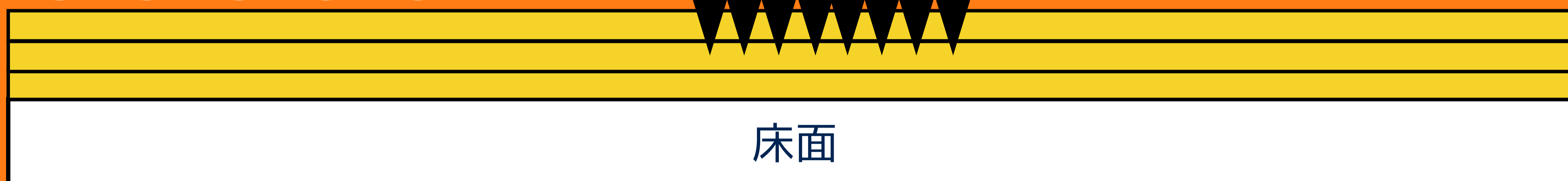
被膜になった油汚れ



ダスターで取れない
被膜に刺さった土砂が多い



ダスターだけで
汚れは除去



これらを同じように洗うと減膜量が異なり、十分な減膜ができない場合も

- ・ダスターの後、洗浄機で1パス洗浄して汚れを除去してから洗浄液を塗布
- ・2度洗いする（1回洗って放置してもう1回洗う）
- ・油汚れの酷い場所は油を残さないという意味から洗浄→回収→洗浄（リンスをしない場合、油を残すと密着率に影響あり）

予備洗浄を行うことでミスのない作業に

リンスの必要性

残留量によってはリンスの必要性も

回収率が低い
 マシンのメンテナンスが悪い
 取り残しが多い

吸い込みの多い床材
 床材の吸い込んだ汚水を
 回収できない

希釈が500倍より濃い
 残留量が規定より増える為
 悪影響が

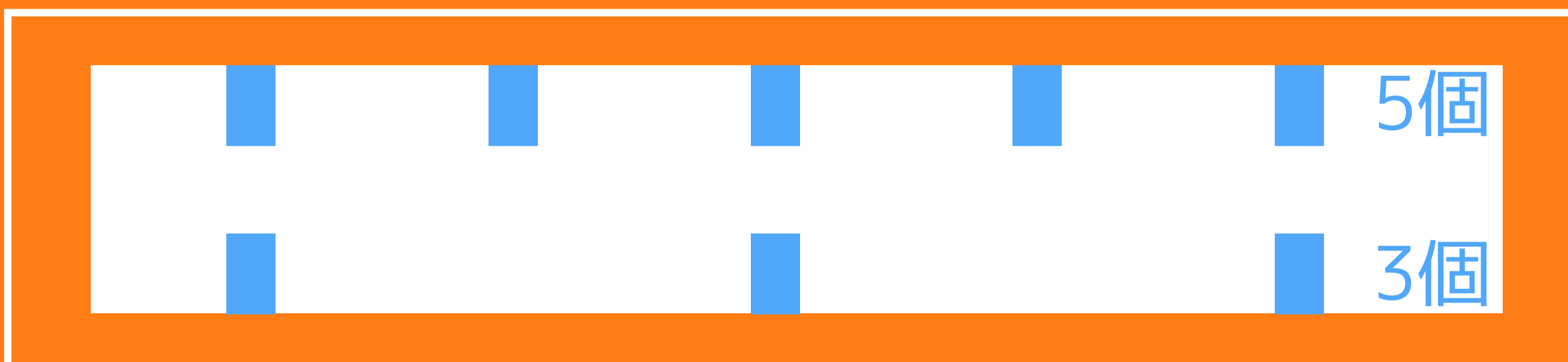
ワックスの密着率低下
 アルカリの残留による
 硬化不良や黄ばみも

カーペットの汚れにくさ
 多機能還元水500倍なら
 汚れやすくなりません

セラミックタイルの滑り
 雨の日に濡れた時も
 転倒事故の抑制ができます

吸い込みの多い床材では、汚水回収後水を100cc/m²以上塗布して3分程度時間をおき床材に水を吸わせてから回収しないと吸い込まれた汚水は洗浄機1パスリンスでは回収できない。

Point!



スクイジーゴムの穴の数が少ない方が床材の中に入った汚水を吸い上げやすい

剥離剤のように濃いものを使用した場合、リンスは最低でも2回必要